

健康



Medical

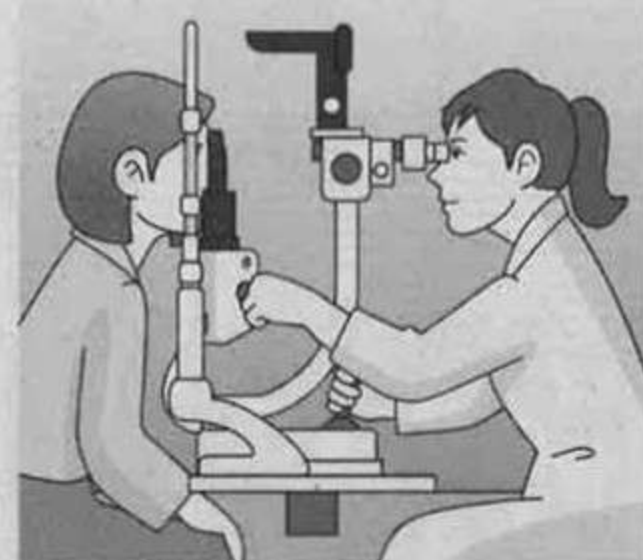
日々のケアでトラブル回避

若い女性を中心に人気のカラコン（コンタクトレンズ）の着用が、目に負担をかける恐れがある。目を清潔に保つことが大切だ。

カラコンが原因で起こる障害として、角膜や結膜に傷が付く、アレルギー性角膜炎などがある。角膜炎は、角膜の上皮が剥がれ、痛みや視力低下を伴う。また、角膜に傷が付くと、細菌が侵入しやすくなり、黒目が白くなったり視力が低下したりする「感染性角膜炎」になるケースも。角膜炎の傷が深くなると、失明してしまう例もある。注意が必要だ。

「正しいケアを知らないまま使用しているケースも多く、目のトラブルを起こす人が非常に増えてきている。最近では、アレルギー性角膜炎、カラコンとまつ毛の裏側の結膜がこすれて炎症が起こり、かゆみを伴う。また、角膜炎に届く酸素が不足すると、血管が浮き出たりむくみが見られたりする可能性がある。」

「これらの障害の主な原因は、カラコンの長時間装着や間違ったケアによるものです。長くても12時間程度で外すようにしましょう。」



カラコン使用の前は眼科を受診

「必ず眼科受診を」
長時間の着用を避ける以外にも、いくつかの注意点がある。使い捨てタイプのもは必ず使用期限を守る。レンズを触る前にせっけんで手を洗う。1日使い捨て用以外のレンズは、使用後に専用の洗浄液で両面を20回程度こすり洗いをして、すぐぐ。ケースはぬれたまま放置しておくと細菌が増殖するので、毎回よく洗ってしっかり乾燥させることが大切だ。
コンタクトレンズを装着していると、眼球の痛みが軽減されることがあるが、これはレンズがばんそうこのように傷口をふさぐ「バンデーシ効果」によるものだという。
「最近では酸素透過率が高く、性能の良いカラコンが増えてきます。使用する際は、必ず眼科を受診し、自分の目に合ったレンズを使い、正しいケアを行うことが重要です。」
コンタクトレンズに関する情報は、日本眼科医会のウェブサイトを（https://www.gankekai.or.jp/contact-lens/index.html）で見られる。（メディアカルトリビューン 2時事）

「カラコン」正しい知識を

舌が腫れてぶつぶつ

喉の痛みを訴える子どもの舌が赤く腫れて、イチゴのようなぶつぶつができていたら「イチゴ舌」かもしれない。

「イチゴ舌の症状が見られる場合、ほとんどのケースは溶連菌感染症です。3〜12歳ぐらいのお子さんに多い病気ですが、大人でも感染します。ただし溶連菌感染症のすべてのケースでイチゴ舌が表れるわけではありません」と日暮里医院（東京都荒川区）の石山敏也副院長は説明する。

▽川崎病も似た症状

イチゴ舌は特徴的な症状だが、舌そのものに痛みやかゆみ、飲食時の違和感などがあるわけではない。症状の仕方にも個人差があるため、軽度の場合には舌の症状に気付かず受診するケースは少なくないという。

「症状が強く出ている場合は、イチゴ舌をきっかけに受診される患者さんが増えています。溶連菌感染症はイチゴ舌だけでなく発熱、喉の強い痛み、全身の赤い発疹などの症状も同時に出現する。」

イチゴ舌

「イチゴ舌」は、溶連菌感染症の症状の一つ。舌の表面がイチゴのように赤く腫れ、ぶつぶつが現れる。これは、溶連菌が舌の粘膜を刺激し、炎症を起こすためである。通常、発熱、喉の痛み、全身の発疹などの症状も同時に出現する。診断は、咽拭子検査や血液検査によって行われる。治療は、抗生物質の服用による。10日間分処方されるが、服用を始めて2〜3日で熱が下がり、イチゴ舌や喉の痛みなども徐々に改善するため、薬を途中でやめてしまおう人が多いという。「服薬を中断すると、溶連菌を完全に排除することができず、腎炎やリウマチ熱などの合併症につながる危険性があります。」



痛みやかゆみなどはない「イチゴ舌」

「溶連菌感染症は命に関わるような恐ろしい病気ではありません。しかし、合併症の危険性が潜んでいるため、症状がよくなった後も処方された分の薬は飲み切ることが肝心です」（メディアカルトリビューン 2時事）

「溶連菌感染症は、A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因で、飛沫（ひまつ）か接触によって感染する。このため予防にはうがいと手洗いが大切だ。感染した場合、一緒に暮らす家族とはタオルや食器を分ける方がよい。」

「溶連菌感染症は、A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因で、飛沫（ひまつ）か接触によって感染する。このため予防にはうがいと手洗いが大切だ。感染した場合、一緒に暮らす家族とはタオルや食器を分ける方がよい。」

▽薬は飲み切る

「溶連菌感染症は、A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因で、飛沫（ひまつ）か接触によって感染する。このため予防にはうがいと手洗いが大切だ。感染した場合、一緒に暮らす家族とはタオルや食器を分ける方がよい。」

「溶連菌感染症は、A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因で、飛沫（ひまつ）か接触によって感染する。このため予防にはうがいと手洗いが大切だ。感染した場合、一緒に暮らす家族とはタオルや食器を分ける方がよい。」

「溶連菌感染症は、A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因で、飛沫（ひまつ）か接触によって感染する。このため予防にはうがいと手洗いが大切だ。感染した場合、一緒に暮らす家族とはタオルや食器を分ける方がよい。」

「溶連菌感染症は、A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因で、飛沫（ひまつ）か接触によって感染する。このため予防にはうがいと手洗いが大切だ。感染した場合、一緒に暮らす家族とはタオルや食器を分ける方がよい。」

短言

■ペットの犬から薬剤耐性菌検出
ペットとして飼育中の犬から、人間の間で感染が拡大している、2種類の抗生物質に耐性を持つ大腸菌を国内で初めて検出したと、大阪公立大の研究グループが発表した。幅広い細菌に有効な第三世代セファロスポリンが効かない大腸菌の治療では、代わりにコリスチンを用いるが、その両方の薬剤に耐性を示す大腸菌が世界的に拡大し問題視されている。一方、薬剤耐性菌はペットからも検出されているが、人と動物の間での感染リスクには不明な点が多い。

■抗真菌薬が効きにくい白癬菌
水虫やたむしなどの感染症の原因となる白癬菌（はくせん）菌。治療に使われる抗真菌薬が効きにくい薬剤耐性白癬菌の種類が増えていることが国内初の調査で分かったと、帝京大などの研究グループが発表した。

■白癬は、日本人の4〜5人に1人が感染していると考えられるありふれた真菌感染症だ。家族間で感染しやすく、重度糖尿病患者では足の切断リスクにもつながる。近年、抗真菌薬に耐性を持つ白癬菌が世界的に報告されているが、感染の広がりの実態は明らかでない。

■研究グループは「治療で抗真菌薬が効かない場合は、他の薬剤が効くかどうか検査し、適切な治療薬に切り替えるなどの対応が必要だ」と指摘している。（メディアカルトリビューン 2時事）

■研究グループは、2018〜22年に感染症の疑いで大阪公立大の獣医臨床センターを受診したペットの犬428匹、猫74匹から分離した細菌687株を調査した。第三世代セファロスポリン耐性が判明した43株の中から、遺伝子解析でコリスチン耐性遺伝子も持つ2株を発見。うち犬から検出された大腸菌1株は両方の

■研究グループは「治療で抗真菌薬が効かない場合は、他の薬剤が効くかどうか検査し、適切な治療薬に切り替えるなどの対応が必要だ」と指摘している。（メディアカルトリビューン 2時事）

■研究グループは「治療で抗真菌薬が効かない場合は、他の薬剤が効くかどうか検査し、適切な治療薬に切り替えるなどの対応が必要だ」と指摘している。（メディアカルトリビューン 2時事）

南米の高山帯で見られる多肉化したスミレのサクルス種=アルゼンチン・リオネグロ州で



この目で見たいと憧れますが、あまりにも膨大な数でいつ実現するか見当もつきません。（文と写真、自然系映像音楽作家・いがりまさし）

園芸の小部屋

世界で見られる多様なスミレ

低木種、多肉種など

昨年発表された最新の研究論文によると、スミレ科スミレ属の植物は世界に664種とされています。日本に自生するスミレ科植物は全て小型の草本ですが、世界には低木のスミレが何種類もあります。日本人が見たら「これがスミレなの？」と驚くものも多く、一例を紹介したいと思います。
ギリシャのクレタ島で私が見たスコルビウロイデス種は、日本庭園や生け垣でおなじみのイヌツゲのような樹形で、根元の幹は幼児の腕ほどの太さがありました。日本人がイメージするスミレとはかけ離れていますが、花は同じスミレ属のパンジー

のようです。
南米の高山帯には、ロゼットピオラと呼ばれる多肉化したスミレの一群があります。そのうち、私がアルゼンチンとチリにまたがる地域パタゴニアで見たサクルス種は小型種。他にも多くの種類があり、大半はサボテンと見まがうような多肉化した葉を持っています。ただし、花は日本人が見てもスミレと分かります。南米の高山帯は北半球より乾燥が激しいからか、このように多肉化する高山植物はスミレ以外にもたくさんあります。
スミレ属以外のスミレ科の植物となると、さらに多様です。いつかは

